

【安倍晋三 内閣総理大臣】



【記念撮影】



丸山審議官		村松委員		服部委員		佐竹委員		熊倉委員		井上局長		
林 定三氏	舟山精二郎氏	山本大臣		安倍総理		茂木会長		カワスミオ ヴァー氏		ダリヤ	曾波氏	相原由美子氏

記録写真6

【受付】



【受付:パスセット】



【受付中風景】



【ホワイエ】



【総会会場 場内風景】



【総会会場 テクニカルスペース】



【総会会場 ステージ】



【総会会場 全体】



【安倍総理控室】



【安倍総理前室】



【山本大臣控室】



【茂木会長控室】



【受賞者、選考委員控室】



【農林水産省控室】



【意見交換会】



MAFF

Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries

農林水産省

平成28年度
食文化発信による海外需要フロンティア開拓加速化事業のうち
日本食・食文化普及の人材育成事業
(日本食・食文化の功労者等の表彰) に係る委託事業

協議会総会 議事録

【農林水産物等輸出促進全国協議会 茂木友三郎会長のご挨拶】

農林水産物等輸出促進全国協議会会長を仰せつかっております、キッコーマン株式会社取締役名誉会長の茂木でございます。

本日は皆様方、大変お忙しい中をご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は、山本農林水産大臣にご臨席をいただくことになっています。また、安倍総理も後ほどいらっしゃるということでありまして、安倍総理そして山本大臣に御礼を申しあげたいと思います。

総会を開催するにあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

まず、日本食海外普及功労者として表彰される5人の皆さま、誠におめでとうでございます。皆さまの長年のご努力に心から敬意を表するとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げたいと思います。

次に農林水産物・食品の輸出の状況でございますが、輸出額は平成25年から3年連続で過去最高を更新し、平成27年は7,451億円となりました。これは何より事業者の方々が輸出に取り組んでこられた結果と考えております。今後とも海外市場のニーズを捉え、安全で高品質な商品を安定的に供給していくことにより、農林水産物・食品の輸出がさらに伸びていくことを期待いたしています。

本年5月に安倍総理を本部長といたしまして、農林水産業地域の活力創造本部において、農林水産業の輸出力強化戦略が取りまとめられました。私自身も輸出戦略策定のワーキンググループのメンバーといたしまして議論に参加をしたのでございますが、この戦略は外部の有識者からのヒアリングを交えながら、関係するすべての省庁が参画いたしまして、議論を行い、作られたものです。これだけの情報を盛り込んだ戦略は国として初めて作成したものです。

ただし、戦略は作って終わりというものではございません。今後具体的な成果を示すことができるよう、関係者が戦略に基づき積極的な取り組みを行うことが肝要であるというふうに考えております。本協議会の会員各位におかれましても、各地域における取り組みも含め、輸出促進の取り組みに一層のご協力を賜りますよう、お願い申し上げたいと思います。

次に、新規に加入された会員をご紹介します。この度、本協議会の趣旨にご賛同いただきまして、一般社団法人国際食文化交流協会、一般社団法人全日本・食学会、特定非営利活動法人日本料理アカデミー及び北海道漁業協同組合連合会が加入されましたのでご紹介を申し上げます。

これをもちまして本協議会の会員数は171団体となっております。

最後に、政府目標であります平成31年の輸出額1兆円を達成するためには、官民をあげた取り組みとオールジャパン体勢により、安全で高品質な商品を安定的に供給していくことが大切です。今後、協議会会員各位のますますのご活躍を期待いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

【山本有二 農林水産大臣のご挨拶】

本日は、農林水産物等輸出促進全国協議会総会にお集まりをいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

協議会の会員の皆様におかれましては、農林水産物等の輸出にご協力ご尽力賜っていますことに厚く御礼を申し上げます。また、本日、日本食海外普及功労者として表彰をされました皆様、誠におめでとうございます。まだ日本食が浸透していなかった時代から長年にわたり日本食の普及に取り組まれていることに心から敬意を表しております。

農林水産物食品の輸出額は一昨年は6,117億円、昨年は過去最高の7,451億円で行っていました。日本の農林水産物の生産額は世界10位であります。しかしながら農産物の輸出額は世界60位で行っています。実力からするとまだまだ伸びる余地が大いにあり、世界10位になってもいいと常々思っているところでございます。また大臣就任直後の8月に香港フードエキスポ2016に出席いたしましたが、日本の農林水産物食品が世界から高く評価され、輸出拡大のポテンシャルがあることを改めて実感させていただきました。

農林水産物食品の輸出につきましては、政府目標である2019年までに輸出額1兆円達成に向けて、本年5月に策定いたしました「農林水産業の輸出力強化戦略」に掲げた施策を着実に実施していく考えでございます。

具体的に申し上げますと、まず、海外市場のニーズ把握や需要の掘り起こしに向けたプロモーション。次に国内の農林漁業者、食品事業者の販路開拓の相談や商談会出展等への支援。次に生産物を海外に運ぶ物流の高度化への支援。次に輸出先国、地域の輸入規制の緩和・撤廃等、輸出環境の整備などの取り組みを実行していくこととしております。

今後とも関係府省、団体、企業等と連携し輸出額1兆円目標達成に向け全力で取り組んでまいります。

結びにあたりまして、本日ご臨席の皆さまがたのご健勝とさらなるご活躍を祈念いたしまして私の挨拶といたします。

平成28年11月25日、農林水産大臣山本有二。おめでとうございます。

【安倍晋三 内閣総理大臣のご挨拶】

皆さん、こんにちは。安倍晋三でございます。

『J A E C A P 2 0 1 6』の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

はじめに、本日、海外での日本食普及の功労者として表彰された皆様に、心からお祝いを申し上げます。おめでとうございます。食習慣の異なる海外において、長年にわたり、様々な苦勞を乗り越え、日本食の普及に情熱を注いでこられました。日本の農林水産物や食品の輸出の先駆けとして、市場を切り拓いてこられたことに、深く敬意を表します。

今年5月に開催されたG7伊勢志摩サミット。各国の首脳を始め、世界中から集まった皆さんに、日本の食材を使った料理やお酒、ワインを味わっていただきました。皆さん本当においしそうに食べていただきましたし、出たワイン、果たしておいしそうに飲むかどうか、私はじっと見ておりました。メルケルさんも、フランスのオランドさんも、ごくごくおいしそうに飲み、おかわりという状況でございましたので、日本のワインもとうとう世界レベルになったなと誇らしい思いでありました。どれも大変な好評を博し、ワーキング・ディナーの乾杯酒であった日本酒『半蔵』は国内外から注文が急増し、出荷が追い付かないほど人気を博していると聞きました。

おいしくて、安全な『日本産』は、まだまだ海外に売り込むことができる。その思いを、改めて強くしております。

農林水産物や食品の輸出は、農林水産業の成長産業化を実現する上で、極めて重要な課題です。安倍内閣では、私自身、海外出張の機会に合わせて、各国の要人に日本の食文化の魅力を直接伝えるなど、輸出の促進に力を注いでまいりました。

その結果、昨年の輸出実績は、約7千5百億円。安倍内閣において、3年連続で過去最高額を更新しました。

世界の食市場は、アジアを中心に拡大し続けています。この需要を積極的に取り込むことにより、更に輸出を伸ばすことができます。

そして、T P P。日本の農林水産物にとって、T P Pは輸出拡大のチャンスでもあります。

このため、輸出目標額1兆円を、一年前倒しして2019年の達成を目指すことといたしました。この目標の達成に向け、本年5月に策定した『農林水産業の輸出力強化戦略』に基づき、輸出拡大に向けた民間の意欲的な取組を加速してまいります。

今後とも、山本大臣と、御臨席の皆様方と力を合わせて、素晴らしい日本の農林水産物と食品の輸出を、更に伸ばしていこうではありませんか。

最後に、御臨席の皆様方のますますの御活躍と御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきますと思います。本日はおめでとうございます。